

## 第1号議案

### 2022年度 活動報告

新型コロナウイルス感染症は6度の波を経験しましたが、収まる気配はなく新たな変異株が次々と現れており、私たちは新型コロナウイルスを恐れることなく共存して生活し、地域活動も進めていくことが大事だと感じています。

旭区で推進している第4期旭区地域福祉保健計画（計画期間：令和3年度から令和7年度）「きらっとあさひプラン」は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。

若葉台地区社協では、「密」を避けながら、若葉台連合自治会、若葉台住宅管理組合協議会、若葉台まちづくりセンターをはじめ若葉台地域ケアプラザ、認定NPO法人若葉台、NPO若葉台スポーツ・文化クラブ、旭区役所、横浜市社会福祉協議会、旭区社会福祉協議会などの関係組織の支援をいただきながら、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに『困った時に声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』を目指して「挨拶運動」と移動サロン「ほっこり」をはじめ、地域福祉保健部会、子育て部会、障がい児・者部会を開催して「福祉のまちづくり」に取り組んでいます。

若葉台の少子高齢化は一層進み（0～18歳人口は1067人、8.1%）、高齢化率は2023年3月末に54.3%となりました。前期高齢者（2987人、22.6%）と後期高齢者（4203人、31.7%）との差は団塊の世代が全員後期高齢者となる2025年までは続くものと思われます。地域福祉活動には高齢者への対応はもちろん、若い世代が安心して子どもを育てられる環境を整える子育て支援、さらには障がい児・者の居場所づくりなどの課題に着実に取り組むことが益々求められています。

以下、2022年度の活動報告をいたします。

#### 1. みんなで取り組む社会福祉活動の推進

##### (1) 高齢者福祉活動

###### ① 老人クラブ若葉台支部（かがやきクラブ）への支援

かがやきクラブの友愛活動部会は各自治会の福祉部、民生委員・児童委員と協働で「高齢者見守り活動」を実施しています。また「子ども達の見守り」や「赤い羽根街頭募金活動」「公園等の清掃活動」など活発な地域への貢献活動や各種の文化とスポーツ活動を展開しており、こうした諸活動に地区社協としても支援してきました。またかがやきクラブの会長会議に参加し情報提供・情報交換に努

めてまいりました。

支援の一環として区老連若葉台支部へ助成金を支援しました。(別表1参照)

## (2) 子育て支援活動

### ① 子育てスタンプラリー

若葉台に身内・知り合いのいない、一人で子育てに悩んでいらっしゃる子育て世帯に対して、「そらまめ」、「若葉台子育て母の会」など既存の子育て組織への参加をためらっている世帯の背中を押す一助(きっかけづくり)となるように、スタンプラリーを実施しました。今年度は子育て世代が参加し易いように大型連休を含めた4月1日～5月31日まで開催し、若葉台全域と上川井・霧が丘から21家族(昨年比-7)が参加されました。色々な所に行く機会が出来たととても良かった、保育園の園庭開放に行くきっかけになった等開催目的に見合う効果が得られました。なお、実施に際しては市社協の地区社協活動助成金(身近な地域の支え合い活動)を活用しました。



### ② 子育てスタンプラリー

対象となる小学生から大学生までが参加し易いように7月1日～8月31日に期間変更して開催しました。集会所・地区センター・ケアプラザ等の施設を廻ってもらい、若葉台の魅力発見と愛着を持ってもらい、ひいては商店街の活性化を図ることを目的に実施しました。参加者は約80名と前年よりも減少しましたが、多くの担い手にも支えられて活動することができました。若葉台以外からの参加者もあり若葉台の魅力発信にもつながりました。



### ③ 子どもの居場所づくり

2023年3月末の0歳～18歳人口は1067人(若葉台全体の8.1%)と前年度より更に41人減少しました。集会所・ピロティ・公園を活用して、居心地の良い場所・雰囲気であるとともに、保護者にとっても生き生き(夢を実現)できる居場所づくりを目指して、中央バスターミナルとわかば学園に「ふれあい花壇」を開設して活動を開始しました。特に若小5年生の総合学習で中央バスターミナルにチューリップの植栽ができたのは大きな成果であります。

### ④ その他の活動への支援・協力

- ◆ [プレイパーク] 毎月の開催を支援・協力。
- ◆ [サロンみんなあつまれ!!] 開催を支援・協力。

## (3) 障がい児・者支援活動

### ① 障がい児・者の居場所づくりの取り組み

今年度は新型コロナウイルスの出現で社会が一変し、新しい生活様式を踏まえた活動を鑑み、無理のない活動スタイルを模索する機会であった。工夫を凝らした活動を実践するには何をすべきか? 障がい者部会で話し合いをしました。支援をしてあげるのではなく、寄り添って一緒に考える姿勢で、どなたでも受け入れられる居場所があるという事が大事ではないだろうか?

その結果、あまり欲張らず、日常生活の復帰をめざした中途障がいになられた

当事者の方々と意見交換をして、日々の生活の中で不便な事などお話してもらい、車いす移動での道路状況等を教えてもらいました。今年度からみらいづくりプラン推進会議の「障がい者サポート部会」に参加しました。

② 障がい児・者理解「ふれあいフェスティバル」開催

3年振りに、若葉台小・中学校、わかば学園、ぶんげいざ、テクテクの会、裕楽会、区内事業所などに協力を頂き、11月6日～12日まで若葉台文化祭に参加しました。来場者は約650名の方々がお見えになり交流・理解を推進することができました。

③ 地域住民とのふれあいの場

5月5日の「みんなあつまれ!!」において、ポッチャを開催し数名の方がお見えになり、ふれあう事ができました。

④ その他の活動への支援・協力

◆〔裕楽会〕開催を支援・協力。

(4) 地域交流活動

① 福祉体験「孫子老の日」の開催

若葉台で実施するイベントに参加する形式で実施する予定だった福祉体験「孫子老の日」は、新型コロナウイルス感染拡大により、予定していた全てのイベントが中止されたことにより、実施することはできませんでした。

② 第32回若葉台地区社会福祉協議会感謝デーの開催

11月3日（木・祝）に、わかばの広場<石の広場>で予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大（第8波）と飲食を伴うために中止としました。

③ 第20回多世代交流「みんなあつまれ!!」開催

2023年5月5日（金・祝）遊水地グラウンド（若葉台多目的広場）で、子どもから高齢者までの多世代の方々が参加し、世代を超えた交流を通して笑顔で交歓していただくイベントを計画し、新型コロナウイルス感染対策を実施した上で実施しました。

※「みんなあつまれ!!」は、前年度末から開催に向けて準備をする関係上、前年度（2022年度）の行事として実施することを申し添えておきます。

④ 「カフェわかば」ボランティア

「カフェわかば」は、市内で唯一の横浜市立若葉台特別支援学校（横浜わかば学園）の生徒・職員により運営されています。地区社協は、民生委員・児童委員ならびに地域ボランティアの協力を得て、カフェ運営を見守るボランティア活動を2018年10月に開始し5年目を迎えました。協力して頂けるボランティアの数も口コミ・広報活動等の効果が奏して34名になりました。2022年6月からは、室内での飲食も可能になり2022年度は延べ209人の方々にご協力をいただきました。

また、わかば学園の先生とボランティアの皆さまとによる情報交換会を開催して、生徒の教育の場である「カフェわかば」をより良くするために、広報・メニ

ューなど多くの意見交換することができました。さらにボランティアの皆さまから要望がありました「パン工房わかば」の見学会を数回に分けて開催することができました。生徒のパン作りの様子を伺うことができて良かった、

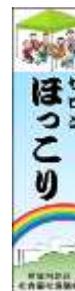
2023年6月からは念願であったボランティアのみによる月曜日営業ができる運びとなりました。「カフェわかば」が地域での憩いの場・交流の場としてさらに活用されることを願っています。

#### ⑤ 学校連携

横浜創英大学こども教育学部の平野ゼミとの連携は、新型コロナウイルス禍でも細々と続けました。昨年度と同じプレイパークと若葉台地区民生児童委員協議会の放課後支援事業たんぽぽに、コロナの状況をみながら数回参加していただきました。学生の皆さんにとっては数少ない実習の1つになったようです。

#### ⑥ 移動サロン「ほっこり」活動の展開

移動サロン「ほっこり」の開催も、2019年11月から数えて38回開催してきました。今年度は「わかばの広場」で10回開催しました。新型コロナウイルス禍にも関わらず平均すると30名強の参加があり、乳幼児連れの母親から100歳超えの方々まで多世代に渡って参加いただいています。のぼり旗の設置・広報活動の効果も相まって、地域における憩いの場として定着してきました。また、5月5日の「みんなあつまれ!!」にも参加して50名程の方々と交流できました。さらに、11月15日には若葉台ショッピングタウン40周年記念イベントの一環として参加依頼があり参加しました。地域の憩いの場づくり・仲間づくりの輪が徐々に広がってきていることを実感しています。



さらに、2020年12月から横浜調剤薬局の協力を得て始めたお薬相談会も、ケアプラザ相談会、まちづくりセンターの住宅よろず相談会へと拡がり、12月からは携帯電話相談を開始、2022年度の相談者は60名でした。

2月からはお絵描きコーナーを併設し子どもからアプローチすることで、子育て世代と関わりができるように工夫をした。

#### (5) 見守り活動

##### ① 地域見守り活動報告会

高齢者等の要援護者への見守りは、民生委員・児童委員、友愛活動部会等と連携しながら実施している自治会が多く、地域全体で「隣近所が知りあい、助けあう」関係を深めることが最も重要と再確認いたしました。

昨年に引き続き3月5日(日)には若葉台連合自治会(担当、福祉地域部)と共催して地域見守り活動報告会(見守り活動の具体的な取り組み例から、改めて学ぶ&考える)を総勢58名の参加を得て開催しました。

第一部は、講演「民生委員・児童委員3年の活動を振り返る」(前若葉台民生委員児童委員協議会会長峰松雅子氏)、第二部は、東自治会と中央自治会のパネルディスカッションを実施し、第三部では、参加者全員でグループワークを実施しました。多くの参加者からは他組織の活動を知ることができ、自組織の活動の

参考になるとの声が多くありました。本地域見守り活動報告会が、若葉台全体の見守り活動の底上げに資することを願っています。

## ② 包括的な見守り「ご近助ほっこり活動」

旭区社会福祉協議会及び19地区社会福祉協議会では、課題を抱える世帯(個人)を早期に発見し、住民自らの力で課題解決し、必要な支援につなげていくために、地域社会からの孤立を防ぎ、様々な困り事を早期に発見し、問題解決につなげていくための新しい包括的な見守りの仕組み「ご近助ほっこり活動」に継続して取り組んでいます。



自治会には既存の見守り活動の延長線上で「ご近助ほっこり活動」を展開して欲しいと、活動への理解と参加・協力を呼びかけして7自治会に賛同していただき、各々の組織に応じて活動を行っていただいています。

## ③ 生活困窮者支援

新型コロナウイルスはかなり収まったとはいえ、生活の立直しに苦労されている方はまだまだ多いのが現状です。生活にお困りの方が地域とつながるきっかけになる事を願って、旭区社会福祉協議会と地域住民の皆さまと協力して、生活困窮者向けのフードドライブ(食品の寄付運動)および日用品・消耗品等の頒布会を開催しました。頒布会で関係機関(区役所、民生委員・児童委員等)との情報共有を希望された世帯には、民生委員の方をお願いして毎月状況を確認しています。

## 2. 福祉活動を支える活動

### (1) きらっとあさひプランについて

地域福祉保健計画は、旭区で生活・活動している「すべての人」が健康でしあわせな生活を送れるまちを目指し、行政はもとより、地域で住みよいまちづくりに取り組まれている関係諸団体と協働し、地域住民が主体となって、共に力を合わせて取り組む計画です。



① 第3期地域福祉保健計画(平成28年~令和2年)として取り組んできた、若葉台および若葉台を取り巻く地域環境の変化に対応する方策、特に認知症対策・孤立防止の仕組みを強力に推進する地区別計画「向こう三軒両隣につながるコミュニケーション → 地域での孤立化を防止する」活動として、2020年度より始まった「あいさつ運動」と「移動サロン」は、地域の皆様にも浸透して来ました。



### ② 第4期地域福祉保健計画(令和3年~7年)

第3期地域福祉保健計画の取り組みを継承しつつ、新たな取り組みとして、地区社協理事を中心に区役所・区社協・若葉台地域ケアプラザの地域支援チームの協力を得ながら、若葉台地区の未来図を策定しました。

### 私たちが描く地区の未来図

#### 『困ったときに、声をあげられる雰囲気のあるまちづくり』

地域には価値観、考え方の違う人など、いろいろな人がいる。そして、いろいろなかわり方がある。困ったときに声を上げ、それを受け止めることができる地域。

若葉台地区社協では、「見守り」、「参加できる機会」、「居場所づくり」、「啓発」をテーマに地域福祉保健計画を推進しています。

未来図の実現の為に以下の4つの目標を設定して、毎月第2木曜日に福祉保健部会を開催し、具現化に向けて検討を重ねております。

- 目標A：お互いを気にかけてあう環境を作る
- 目標B：地域のだれもが参加のできる機会がある
- 目標C：だれもが気軽に集まれる身近な場がある
- 目標D：地域の取り組みを多くの人に伝える、だれもが地域へ情報を発信できる

#### ③具体的なあらたな取り組み

##### ✓ (目標A)

- 新たに雰囲気の醸成づくりの為に「黄色と緑色の缶バッジ」活動の取り組みを開始。(10月)

##### ✓ (目標B)

- 移動サロン「ほっこり」に携帯電話相談併設(12月)
- 移動サロン「ほっこり」にお絵かきコーナー併設(2月)

##### ✓ (目標C)

- 「ふれあい花壇」に若小と連携してチューリップを植栽(2月)
- わかば学園、カフェわかばボランティアグループと連携してわかば学園内に「ふれあい花壇」を開設(2月)

##### ✓ (目標D)

- 広報部会を開催して情報発信について検討を開始。(7月)

#### (2) ボランティア団体への支援

「わかばネット」をはじめ地区社協参加団体に支援を継続しました。また、ボランティア団体による情報交換会を2回(7月、2月)開催しました。コロナ禍でも対策をとりながら活動を継続しており、諸団体間で連携の動きができてきたことは望ましい。

#### (3) 助成金

2022年度もボランティア団体、当事者団体等へ総額475,000円を助成いたしました。(別表1参照)

#### (4) 赤い羽根街頭募金協力



10月1日（土）～3日（月）の10時から18時までイトーヨーカドー出入口付近にて赤い羽根共同街頭募金を実施しました。募金には、まちづくりセンター、イトーヨーカドーの支援を得て、かがやきクラブ、福祉活動を行っている諸団体、若葉台地区民生委員児童委員協議会、ジュニアボランティアの方々にご協力をいただき、赤い羽根街頭募金をイトーヨーカドー前で実施しました。コロナウイルス禍の中で感染防止対策に万全を期して声掛けなし、CDでの呼びかけでの募金活動となりました。街頭募金にご協力くださいました多くの皆さま、誠にありがとうございました。募金額は下表のようになりました。

月日（曜日）	金額（円）
10月1日（土）	72,929円
10月2日（日）	69,491円
10月3日（月）	80,974円
合計	223,394円



赤い羽根街頭募金額

なお、集まった募金の約7割は、募金をいただいた地域で使われていますが、残りの約3割は、皆さまの住んでいる市区町村を越えた広域的な課題を解決するための活動に、都道府県の範囲で使われています。

#### (5) 表彰

① 令和4年度旭区社会福祉協議会社会福祉功労表彰として、以下の方が表彰されました。

- 地域福祉功労：萩原康男様

2007年から第一自治会役員として活動を開始し、2017年からは地区社協理事として活動されており、長きに渡り若葉台全体の福祉活動に尽力されていることが評価されての受賞となりました。

### 3. 広報活動

#### (1) 広報紙「社協だより」の発行（年6回の発行）

社協の活動報告とボランティア団体の紹介・活動報告の掲載はもちろん、地域福祉の充実に向け地区社協のみならず地域でいろいろ活動されている様子や地区社協の目指すところなど様々な情報を提供しています。

特に、第4期地域福祉保健計画（令和3年～7年）については、前年度に引き続き紙面を大きく割いて周知に努めました。

また、いつも地区社協の活動にご協力いただいている、お年寄りや障害者だけでなく地域の皆さまにとってなくてはならない施設である若葉台地域ケアプラザのさまざまな取り組み内容を、地域の皆さまに知っていただき、身近に感じていただければとの思いで「若葉台地域ケアプラザってなーに？」の連載は22回に達しました。地域ケアプラザのご協力に感謝を申し上げます。

さらに、2021年2月号（No. 133）から連載を開始した、「暮らしの情報」は、子育て世帯の居場所情報、若葉台で活動する福祉活動団体の紹介を行いました。外出時の送迎を行う団体の紹介では、高齢で外出に不安のある方から

問い合わせがあり、新規入会につなげることができました。

(2) インターネットを活用した情報提供

ホームページ（2021年9月）とTwitter（2022年1月）での情報発信を強化しています。まだまだ閲覧者・フォロー数が少ないので、発信情報量と周知が必要と感じています。以下にURLとQRコードを記載します。是非、ご覧ください。

<https://www.wakabadai-chikushakyou.org/>

<https://twitter.com/chikushakyou>



(3) 助成金交付団体の広報

助成金を交付しているボランティア団体、当事者団体等の方々にご理解をいただき、社協だより等で広く周知しました。

(4) 地区社協をもっと知って頂くために！

地区社協って何をしているの？、そう思われる方が大勢いらっしゃるのですが、わかりました。そこで、2019年6月から自治会等関係団体に出向いて、地区社協の役割と活動内容を説明させていただき活動を実施しています。ほぼ一巡したので、2022年度は、西自治会定例会に出向いて説明を行いました。きらっとあさひプランの説明を中心に、きらっとあさひプランを知っている人が増えることを願っています。

(5) 諸団体の広報支援

若葉台における地域福祉課題である「参加できる機会」、「居場所づくり」の課題解決に向けて、若葉台で活動されている諸団体を社協だよりで継続して紹介することにし、今年度は、特定非営利活動法人あさひ、テクテクの会、のこのこの会を紹介しました。

(6) 他媒体による情報提供

- 「連合自治会ブログ」、「みんなの若葉台」へ記事を掲載していただきました。（ふれあいフェステバル、みんなあつまれ、移動サロン）
- 「ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ」に「カフェわかばボランティアグループ」と「移動サロン「ほっこり」サポートグループ」を登録して広く周知に努めました。
- ミニ地区センターまつり(9/10～9/11)に参加し、地区別計画タペストリー、挨拶運動と移動サロン「ほっこり」のぼり旗を展示して周知に努めました。

#### 4. 研修・講演会の参加・実施

(1) 役員・理事研修

①きらっとあさひ福祉大会（2／11）

総勢15名の方に参加していただき、鶴ヶ峰地区の実践報告「垣根のないまち～障がい者地域作業所との協働を通して～」を情報共有しました。

②支援技術講習（2／9）

「黄色と緑色の缶バッジ」活動の取り組みを推進する為に、若葉台地域ケアプラザの協力を得て、支援技術について参加者（10名）で意見交換・情報共有をしました。

(2) 講演会

地域見守り活動報告会（3/5）において、前若葉台民生委員児童委員協議会会長峰松雅子氏に「民生委員・児童委員33年の活動を振り返る」で講演をしていただきました。

(3) 地区社協分科会

地区社協に求められている「困りごとに寄り添い、ネットワークを活かして解決していく」という役割について、以下の情報提供・情報交換をしました。

- ① 第1回（5/30）は、「おたすけ無料頒布会」、「ご近助ほっこり活動」、「見守りの仕組み」
- ② 第2回（7/9）は、「ご近助ほっこり活動」、「地区社協における見守りの仕組みづくりの導入に向けて」
- ③ 第3回（11/29）は、講演「ご近助ほっこり活動」について、活動事例紹介～市沢町南自治会
- ④ 第4回（1/27）は、「活動資金（賛助会費）を活かす地区社協の役割についてグループに分かれて情報交換。旭北地区のご近助ほっこり活動報告
- ⑤ 第5回（3/23）は、頒布会、子どもにまつわる活動について意見交換

5. 地区社協活動

(1) 理事会・役員会

定例の役員会（第1水曜日）、理事会（第3木曜日）を開催して、地区社協活動の推進と関係諸団体との情報共有に努めました。

(2) 専門部会

● 地域福祉保健部会

毎月第2木曜日に、きらっとあさひプラン推進のために全理事の方にお集まりいただき、地域福祉の課題解決について議論を重ねています。

R4年度は第4期地域福祉保健計画の2年目に当り、これまでの2年間の活動の振り返りを実施し、その成果を振り返りシートにして区役所に提出した。

● 子育て部会

多世代交流「みんなあつまれ！！」の開催（5/5）をしました。

● 障がい者部会

裕楽会（中途障がいとなられた方たちの交流会）に毎月参加しています。広報活動を支援しており参加者の増加につながっています。

● 広報部会

地区別計画目標D「地域の取り組みを多くの人に伝える、だれもが地域へ情報を発信できる」の実施に向けて広報部会を開催（9/11、11/13、3

／12)して以下の確認をしました。

- ✓ 社協だよりへの地区社協助成金(わかばネット)組織の掲載順を確認  
わかば子育てサポートグループ(4月)、戦争体験を語り継ぐ若葉の会(6月)、カフェわかばボランティアグループ(6月)、移動サロン「ほっこり」サポートグループ(8月)
- ✓ 保存版情報として提供したものを冊子化検討～費用対効果検討要
- ✓ 1頁タイトル「社協だより」の改善～カラーに相応しいものにする
- ✓ 次年度も開催(7/9、9/10、11/12、3/10)を継続する。

### (3) 賛助金募集活動

2023年1月～3月にかけて募集活動をさせていただきました賛助金は、地区社協活動のための大切な資金となるものです。今年度も個人・団体・法人から以下の協力をさせていただきました。皆様から頂いた賛助金は地区社協の大きな財源となっています。皆様のご協力に心より感謝いたします。(3月31日現在)

個人	:	934,590円	
団体・法人	:	124,000円	(22団体・法人)
合計	:	1,058,590円	

※賛助金は、募集期間を過ぎてもお届けくださる方がいらっしゃいます。その為、第2号議案収支報告書－収入の部－賛助金とは一致しないことを申し添えておきます。

※賛助金募集時に寄せられた以下の意見の課題解決に向けて活動をしました。

- オンデマンドバスの拡充 ～ 移動支援の活動をされている組織の紹介を行いました。
- コインパーキングの拡充 ～ まちづくりセンターの駐車場の紹介、未来づくり協議会で提言を行いました。
- 子育て世帯・生活困窮者の支援 ～ 頒布会を2回(4月、12月)開催、民生委員と協力してその後もつながりを維持しています。
- エレベーターの設置 ～ 未来づくり協議会で提言しましたが諸般の事情で実現には至りませんでした。
- 地区社協活動の広報充実 ～ 社協だより、ホームページの拡充に努めました。
- 杖やカートを利用されている方の支援 ～ 気軽に支援できるような意識の醸成を目指して缶バッジ運動を開始しました。
- 見守りの充実 ～ 地域見守り活動報告会の開催、ご近所ほっこり活動を通じて、若葉台全体で情報を共有して充実に向けて取り組んでいます。

## 6. 委員会等への参加

地域の福祉団体等と連携し福祉の充実を図るため、また、住みよい街づくりをめざして委員会等に参加しました。委員会等で積極的に情報交換を行い、得られた情報は役員会・理事会において情報共有を行いました。

※新型コロナウイルス感染拡大防止による書面審議と中止回数を含む

- (1) 若葉台連合自治会理事会（6回、：会長）
- (2) 若葉台地域ケアプラザ運営協議会（3回、会長）
- (3) 若葉台青少年健全育成委員会（2回、会長）
- (4) 若葉台プレイパーク活動運営委員会（1回、会長）
- (5) 若葉台地区センター委員会（3回、副会長）
- (6) わかば学園コミュニティハウス運営委員会（3回、会長）
- (7) わかば学園コミュニティハウス利用者会議（1回、会長）
- (8) 中央学童運営委員会（2回、副会長）
- (9) 若葉台未来づくり協議会（6回、会長、事務局長）
- (10) 若葉台みらいづくりプラン推進会議（2回、会長）

[目的]横浜若葉台みらいづくりプランの目標実現及び各種取組みの推進にあたり、プラン策定に携わった横浜マスタープラン策定委員会の構成員を中心に、継続的且つプランの主旨に適った適切な進捗管理を行うことを目的として、推進会議を設置する。

- (11) 若葉台みらいづくりプラン地域説明会小委員会（4回、会長）
- (12) 地域作業所若葉台ぶんげいぞ運営委員会（3回、会長）
- (13) かがやきクラブ若葉台第一・第二支部長会（2回、副会長）
- (14) 若葉台特別支援学校運営協議会（3回、会長）

[目的]学校と保護者、地域、福祉、医療及び関連機関等との相互理解や信頼関係に基づき、児童・生徒の健全な育成や社会的自立及び福祉の街づくりへの貢献に向けて、よりよい学校づくりを目的に活動とする。

- (15) ひまわり活動推進会議（3回、会長、副会長）5/19, 9/15, 12/15

[目的]地域ニーズや課題を解決するための検討、介護予防・生活支援サービス事業の拡充、福祉のまちづくりを推進する。

- (16) 商店街活性化部会（7回、役員）

[目的]家主、店舗、地域住民が協働して商店街活性化はもちろんのこと、地域住民の憩い・交流・娯楽など商品売買の場を超え地域の雰囲気醸成する空間としての地域コミュニティの担い手となる。

- (17) 障害者サポート会議（3回、会長、副会長）

[目的]「安心・安全・健康まちづくり」とSDGsのまちづくり（障害者やご家族等を含めた誰もが住みやすい、利用しやすいまち）の実現に向けて、高齢者対応にとどまらず障害者（児）・多様性についても地域ぐるみで理解とサポートに努め、自分事として取り組む。

- (18) 旧若葉台西中学校跡地活用検討・調整委員会（8回、会長）

- (19) 地域ケア会議（5回、役員）

[目的]高齢者等個人に対する支援の充実を目指し、地域での尊厳のある生活の継続を目指して、公である地域包括支援センターとボランティアを含めた

地域住民とが情報を共有して、高齢者等を継続的かつ包括的にケアする。  
(20) 若葉台小学校キッズクラブ評議会（2回、役員）

## 7. その他

### (1) 時計設置

2021年度の定期総会で承認していただきました「わかばの広場」への時計の設置は、設置工事の許可等の調整に時間が掛り設置できませんでした。次年度に継続して取り組むことになりました。

別表1 助成金一覧

2022年度は以下の15団体に助成金を交付しました。

団体名	金額	活動内容
特定非営利活動法人あさひ	20,000	身体障害者等の外出時の送迎、買い物支援活動（有償）
テクテクの会	30,000	ハンディキャップのある子どもとその家族等の交流
のこのこの会	40,000	高齢者、障がい者を対象とした送迎援助活動（有償）
区老連若葉台支部	45,000	集会所を利用して活動、老人会員相互の親睦
若葉太鼓（中央学童保育）	30,000	若葉台でのイベント演奏活動
若葉台なんでも相談	20,000	電話での困りごとや悩みことの相談、声の訪問活動
若葉台プレイパーク活動運営委員会	40,000	若葉台の公園を活用して子どもの豊かな成長を支援
戦争体験を語り継ぐ若葉の会	30,000	平和学習、体験講話集の頒布、千羽鶴作成など
友愛活動部会	45,000	老人会加入者対象の見守り
サロンみんなあつまれ！！	35,000	子育て中の親子を中心とした多世代交流の場の提供
わかば子育てサポートグループ	40,000	地域の団体と力を合わせて、地域の子育てを応援。
カフェわかばボランティアグループ	30,000	地域の憩いの場となるように、会議費、広報費、備品費等
裕楽会	20,000	中途障がい者の交流の場
移動サロン「ほっこり」サポートグループ	50,000	誰でも・気軽に・近くで参加できる、世代を超えた交流の場、移動サロン「ほっこり」の開催
合計	475,000	

別表2 わかばネット構成団体

テクテクの会	ハンディキャップのある子どもとその家族等の交流	中田 さつき (922-0269)
のこのこの会	高齢者、障がい者を対象とした送迎援助活動（有償）	増田 利平 (922-2007)
ケアサポート野の花	介護保険、障害者自立支援法適用外でのケアサポート（付き添い、家事援助）	白髭 紀子 (921-3098)